令和３年度共通実践事項の成果と課題　　（　福平小　）学校

内容	共通実践事項の成果と課題　　○成果　　●課題
Ａなめらかな小中連携 引継ぎ会	○　中学校のテスト期間と同様に，「テスト範囲一覧」・「勉強計画表」を配布し，テスト期間に自主学習に取り組む習慣付けを行った。自学ノートを提出する児童が増え，学習内容の充実が図られた。 ○　１分前着席，チャイムで黙想を習慣化し，静と動の区別をつけ，授業に集中して取り組むことができるようになってきた。 ●　小中引継ぎ連絡会の充実に向け，会の進め方を検討したり，引継ぎ資料の形式を検討・改善したりしたかったが，話し合う場がなく，現状通りの実施となった。 ●　交流学習を充実させるため，教科担任制の授業体験ができる専科の授業や体育でのチームスポーツ競技を計画したが，コロナ禍のため，Ｒ３年度は実施できなかった。
Ｂよりよい生徒指導	○　人権委員会を中心に，ほめ合う場を設定した。 ○　キラリカードに友だちのいい所を書く子どもが多く，そのカードを読んでいる子どもの姿も見られた。自己肯定感を高められるように，言葉にして丁寧に伝えたい。 ●　情報教育について，保護者への啓発が不十分だった。 ●　情報機器の使用について，子どもや保護者に伝えるように心がけたが，夜９時以降もゲームやテレビを見る子どもがいた。 ●　ネット，メディアに接する時間の長い子どもが多い。
Ｃ確かな学力向上	○　始業において，低学年では「チャイム着席，黙想」，中・高学年では「１分前着席，チャイム黙想」で取り組んだ。学級差はあったが，取り組んだ学級では，落ち着いて学習に入ることができていた。 ●　福平中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習強化週間」（ノーメディア期間）とすることについては，児童の意識化を図るため，また，どの程度実施できているか把握するため，今年度実態調査を行うつもりであった。行事やコロナ禍等もあり実施ができなかったので，次年度取り組めるとよい。６年生においては，この期間に「まとめテスト一覧表」を作成し，学習に取り組ませる等の工夫を行った。 ○●　「聴く姿勢の指導」については，本校の１学校１改革である「聴き方名人あいうえお」と連携して年間を通して指導を行ってきた。教師が意識して指導することで，少しずつ改善されてきているが，課題は多い。６年生は３学期より「立腰」の号令を使用。
Ｄ支え続ける特別支援	○　就労をめざした「進路相談」ということで，今年度は，１学期に６年生を対象とした中学校見学を実施した。中学校の協力により，保護者と児童と一緒に，中学校の通商学級の授業と支援学級の授業を参観できた。その後，保護者と支援学級の担任とで意見交換を行うことができ，中学校進学への見通しを持つことができた。 ○　１月下旬から２月初旬に「中学校における特別支援学級での学習について」調査依頼があった。例年４月に行われることであるが，今年度は，進学前に行われ，中学校へのスムーズな引継ぎが行われた。家庭によっては，保護者だけの意見ではなく，児童と一緒に考えて，調査に回答していたようだ。 ●　５年生対象とした中学校見学会を３学期に予定していたが，まん延防止措置対象地域に指定されたため、実施を見送った。
Ｅ応える教育相談	○「学校楽しぃーと」を毎学期実施し，子供の不安や悩みを受け止めた。データやファイルで記録を残し引き継げるようにしている。 ○　教育相談やスクールカウンセラーを周知するために，保護者や児童生徒へ相談窓口について説明するプリントを作成し配布した。 ●　学校楽しぃーとがどのくらい活用されているのか。どう活用していくか。

F 健やかな保健指導	○　う歯治療勧告書の発行とむし歯カレンダーの掲示・治療のよびかけにより、治療済みの割合が高まった学級もある。 ○　生活リズムを整える啓発を，情報を提供したり資料を作成したりして実施できた。 ○　福平中のテスト期間に合わせたノーメディアの実施をして，メディアと触れ合う時間の意識向上に努めた。 ●　登校しぶりが多い。小・中で今後も連携と情報交換が必要である。 ●　夜遅くまでゲームをして起きている生徒児童がいる。(生活リズム調査や聞き取りから)

令和３年度共通実践事項の成果と課題

（　平川小　　）学校

内容	共通実践事項の成果と課題　　○成果　　●課題
A なめらかな小中連携引継ぎ会	○●学期末のまとめテスト（これに限らず単元テスト等も含む）のテスト範囲連絡など行うことで，日々の宅習等で計画的にテスト勉強をしながら望む意識が見られた。しかし，個人差が大きく，範囲を伝えることだけではなかなかテスト勉強として取り掛からない児童も見られた。 ○　２分前着席・１分前黙想の取り組みの意識はおおむね継続できた。学校全体では，全校朝会などの全体集合が，毎回時間前に揃い，静かに待ていていた。
B よりよい生徒指導	○　情報教育の充実として，夜８時～朝８時は情報機器から離れて心と脳を休めることの大切さを児童・保護者へ周知した。少しずつ意識が高まってきた。 ●　保護者と児童が一緒に，情報機器の危険性や正しい関わり方を学ぶ場を設定する場が必要であった。 ○　「積極的生徒指導」の確実な実践として，「ぽかぽか言葉」「ぽかぽか行動」を合言葉に自他のよさを認め合い温かな人間関係づくりを柱に取り組んできた。さらに今年度は，「会釈・うなずき・よい反応・あいづち」についても幅を広げ，児童が意識して行動する姿が多くみられた。 ○　総務委員会が主体となった「ためろ！ビー玉いいとこ見つけ」の実施，各学級の思いやりの花やいいこと探し，構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの実施により，自己肯定感を上げて，自分も友だちも大切にできる児童が増えてきた。 ○ホワイトボードを用いて，解決的志向でケース会議や共通理解事項を進めた。
C 確かな学力向上	○　１分前着席，チャイム黙想については、定着してきている。 ○●ノーメディアデーを保健指導から出される「生活リズム実行表」と合わせて行っているが，各家庭での取り組みとなり取り組み方に差が大きい。 ●　姿勢が崩れる子もおり、「立腰」については課題である。

D 支え続ける特別支援	○コロナ禍で対面での教育相談が難しい中，連絡帳や電話，メールで就学教育相談前にて保護者との情報交換を十分に行うことができた。また，連絡帳を活用し，児童ができたことを伝えることで自己肯定感を高めたり，保護者と共通実践をしたりすることができた。 ○中学校での特別支援学級見学・相談の時間を作っていただいたことで，子供を入学させる保護者がいろいろと質問することができ，いくらか不安を解消することができていた。 ●中学卒業後の進路について考える授業をしたり，保護者とも話をする機会を作ったりしたが，他人との関りを苦手とする傾向にある児童が，高校進学や就労について考えることも避けるようになってしまっている。
E 応える教育相談	○　子供の不安や悩みを受け止めるために，定期的に心のアンケートや学校たのしぃとを活用しながら，気になる項目については個別に話を聞くように時間を確保して，聞き取りを行った。アンケートや聞き取った内容については，データやファイルで記録を残し，引き継ぎとして見守りを続けていくようにしている。 ○　教育相談やスクールカウンセラーの周知をする。全学年で時刻を合わせ，教育相談の枠を同じにすることで，兄弟間の連絡をスムーズにできるよう配慮し，全保護者と教育相談を実施することができた。スクールカウンセラーは，１学期に相談した保護者が２学期にも希望をしたことで児童の変容を見ることにも役立った。
F 健やかな保健指導	○　生活リズム実行表を年３回実施した。その中で，生活リズムを整えることの大切さとノーメディアを意識した時間と時刻を決めてり組むことで，１週間は意識して考える機会を作ることができた。 ○　福平中のテスト期間中に設定されているノーメディアデーの期間については，保健だよりや週報等でも話題にし，積極的に取り組んだ。 ○　学校保健委員会資料では，メディア使用の実態について保護者に向けて報告した。

小中連携研修会　令和３年度共通実践事項に対する成果と課題　　福平中学校

❶　なめらかな小中連携　白澤先生・佐藤先生
①　可能ならば，中学校の教員による乗り入れ授業　→　コロナ禍の状況で止む負えない。 ②　小中引継ぎ連絡会の充実　→　この３学期，そして，次年度の１学期の引継ぎ連絡会の設定の在り方(時期・回数・内容等の適切な設定) …　教頭・教務レベルでの教育課程編成調整会に期待
③　**よりよい生徒指導**　山﨑勝利先生・武田先生
○ 情報教育の充実 ・ネットに関する講話を実施した。 ・父親セミナーでは，家庭でのスマホ利用について話をした。 ・インターネット，SNS，スマホ等におけるトラブルの対応について，講師を招聘し研修を行った。 ○ 積極的生徒指導の確実な実践 ・サンクスボード活動の実施 職員が生徒の善行を見付けたら，付箋に「ありがとう」メッセージを書いて貼っていく。 ・サンクスフラワー運動の実施 友達や先生にしてもらって有難かったこと，助けられてうれしかったことなどのエピソードを書いて貼っていく。いじめ問題を考える週間や人権週間に実施した。
❸ 確かな学力向上　徳重先生・熊野先生
○　２分前着席，１分前黙想 ・　各学級で総務・副総務が前に立って呼びかけを行った。 ○　家庭学習強化週間，ノーメディアデー」

・　提出物が出ないことも多く，家庭学習が不十分であった。 ○　「立腰」 ・　あまり意識して声かけができていなかった。
④　支え続ける特別支援　税所先生・山﨑博文先生
○　６年生児童・保護者対象の中学校見学および説明会を実施することができた。 ○　各種研修会の折に、それぞれの学校の実態等について情報交換をすることができた。 ○　保護者の認識の違いや、特別支援教育についての理解を深める時間が必要である。
⑤　応える教育相談　西田先生・雨宮先生
○「学校楽しぃーと」を確実に実施でき、データの保存ができた。 ○２学期後半から、SC への相談者が増加傾向にあるので今後も広報・周知活動を行っていきたい。
⑥　健やかな保健指導　橋口先生・村山先生
○　テスト期間に合わせ，ノーメディアを設定し実践した。 ○　「生活リズムアンケート」を実施し，保健だより等で，基本的生活習慣についての情報提供，啓発を行った。 ○　治療勧告書も３回目の配布を行ったが，治療率５３．３％（１月１７日現在）と目標の６０％に届かなかった。